

全国保育実践交流連絡会〈東北地区ニュース〉 2025年3

ようやく東北地方にも春の訪れが感じられるようになりました。長い間、雪に閉ざされていたり、寒さに耐える東北にとって、待ちに待った春の到来です。

東北は青森・岩手ブロック（4園）、宮城ブロック（6園）、福島ブロック（7園）の計17園の保育園があります。今年度は東北全体での各年齢部会を年1回行い、ブロックごとに学習会や各年齢部会も行ってきました。年長の交流保育も各ブロックごとに行っています。

各ブロックごとの取り組みについてご覧ください。

《青森・岩手ブロック》 青森2園（ひなた保育園・是川こども園）

岩手2園（花巻太陽の子保育園・たんぼぼこども園）

青森・岩手年長交流合宿

2月5日(水)～7日(金)の日程で是川こども園を会場に年長交流合宿が行われた。

今年度の交流合宿は、10月、12月の合宿が急な事情により、花巻太陽の子保育園が参加できなくなり、ひなた保育園・是川こども園の2園で行いました。2月の交流合宿はひなた保育園が雪の影響で参加できず、花巻太陽の子・是川こども園の2園で行い、8月の海合宿以来の交流となった。

3日間通して岩淵さんに来ていただき、年長後期のリズムや、援助の必要な子が多い（是川）中でも“年長の保育”“要求”というところを大切に作る姿勢より、多くの学びがあった交流合宿だった。太陽の子保育園とは夏以来の合宿であったが、大人も子どもも久しぶりではないような、気持ちの良い3日間となる。



夕食は野菜手巻き寿司



バヤラトさんによる馬頭琴



文化行事えんぶり（重地えんぶり組）

《宮城ブロック》6園（くるみの木保育園・錦保育園・さくら保育園・石巻たから保育園

石巻ひがし保育園・げんき保育園）

【宮城ブロック 年長交流合宿】

◎保育士の感想

2月20日（木）～22日（土）にかけて、くるみの木保育園にて今年度最後の年長交流合宿が行われました。参加した職員、保護者の感想を紹介します。

☆くるみの木保育園に6園が集まり、今年度最後の年長交流合宿をしてきました。各保育園から1、2名ずつ分かれ、7つのグループを作って生活を過ごしました。生活の中で困っている時に子ども同士で支え合う姿や、種類の違うコマを交換して遊ぶ姿などがあり、友達の幅が広がり、関わり合う姿がよく見られました。

自園だけでなく、色々な子が集まって互いに刺激になり、様々な人間関係だったり、できなかったことができた喜びを感じたりと、合宿の良さを改めて感じました。特にとび箱では、踏切板をかなり離して跳ぶ友だちの姿から刺激を受け、今までより離して挑戦する姿が見られました。失敗しても諦めずに挑む強い心を持つ子ども達から私も勇気をもらいました。

私自身も、色々な職員の方々や、色々な子ども達との関わりの中で保育の反省を見つけたり、見て学べる事が多かったり、貴重な時間を過ごすことができました。子ども達と共に生活し、楽しいことや難しいことを共有しながら合宿ができて良かったです。

錦保育園職員 小野雄大

◎保護者の感想

保育園合宿に参加しての感想

☆1年間を通して、大島海合宿、八幡平山合宿、埼玉さくらんぼ保育園合宿、八幡平スキー合宿に参加をさせていただき、子ども達と関わってきました。あまり天候に恵まれず、雨の中、海に入り、山を登って、吹雪の中スキーをしたことは思い返せば良い思い出です。また、そんな中でも逞しく自然と向き合う子ども達を見て、単純に成長を感じる反面、いかに普段、子ども達は大人のエゴで気持ち、行動がセーブさせられているのかと考えさせられました。雨の中、笑顔で海に入る姿、歌を歌って山を登る姿、吹雪の中でもトレーンを崩さず滑る姿、プライベートで悪天候であれば、海も山も入ることはためらい、諦める家庭が大半だと思います。しかし、子ども達にとってやりたいことをしない理由に天候は関係ないんだと認識しました。普段の生活でも、振り返れば子どもがしたいことを遮り、親が子どものしたいことを考えて、押し付けていたんじゃないかと感じました。また、各合宿を通して特に印象に残っているのが、八幡平山合宿において6時間をかけて茶臼岳に到着して見た眺望は今でも忘れることができません。悪天候の中、みんなで登り、願いが叶ったように茶臼岳に到着した時には晴れ間を見せてくれました。大人でも音を上げる道中をみんなで乗り越えて、みんなで美しい眺望を見て感動する。これ程までに達成感、感動を感じたのは、私自身、初めてだったかもしれません。親元を離れて、子ども達と数人の大人だけで合宿に行く、まして海に入り、山を登り、スキーをする。強い心と身体がなければ乗り越えることなんてできません。日頃から深い愛情を持って接し、強い心と身体を養ってくれる先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。

錦保育園5歳児保護者

【宮城ブロック 学習会の取り組み】

◎講演会 参加した保護者の感想

3月1日(土)、さくら保育園にて日食正昭先生による親子リズム、講演会が行われました。たくさんの保護者が参加して、親子リズムを楽しんだ後、「子どもに安心と自信を」と題して日食先生にお話ししていただきました。参加した保護者の感想を紹介します。

☆日食先生のアコーディオンやピアノの演奏も素晴らしく、子どもたちの歌声がどんどん元気に生き生きしていくのが伝わり感動しました。講演会のお話も楽しくあっという間でした。日食先生は小学校の教員を長くされていたということもあり、小学生の上の子への接し方についても考えさせられました。親として考える貴重な機会をいただきありがとうございました。

2歳児保護者

☆娘のリズムをあと何回見られるのだろうと思いながら見ていました。入園したばかりの頃、みんなのリズムを見ているだけだった姿からは想像できない程、堂々と笑顔で自信を持ってリズムする姿に成長を感じました。日食先生と子供たちの楽しそうな様子を見て、こちらも楽しくなりました。また、特に講演の中の、子どもの話を共感して聞く、子どもに「いるだけでいい」と伝えるという点について、日頃から意識していきたいと思いました。

5歳児保護者

《福島ブロック》7園(いわきさくらんぼ保育園・好間保育所・芽ぶきの原保育園・なごみ保育園

もとみや幼児の家保育園・さくらっこ保育園・西口保育園)

福島ブロックでは、年長交流保育(2泊3日が年間4回)、各年齢部会、うたとリズムの学習会、オンラインでの年間を通しての子どもの発達の道筋を学ぶ学習会、日帰り3園(いわきさくらんぼ、好間、西口の3園)、2園(もとみや幼児の家、さくらっこの2園)の年長リズム交流を行ってきました。園長会も月1回行い、取り組みの反省や学習会や部会の持ち方について綿密に話し合う事を大切にしたい1年でした。

◇福島 歌とリズムの学習会 第1回令和6年5月10日 第2回令和6年12月7日

講師：高橋陽子さん(第2くるみ保育園元園長・埼玉県熊谷市)

=参加職員の感想=

今回のリズムとうたの学習会もとても心地よく入り、すぐ保育の中に生かし子ども達と一緒に楽しみたいと思った。大人が自由に動く、できる範囲の中で心地よくしなやかに動く、表現を楽しむということこの学習会の中でまた気づきと発見があった。こうしなければならないという固定概念があり、楽しさや自由さから遠ざかっていたと振り返る。私たち保育者のリズムにおける表現の豊かさであったり、一緒に楽しめるリズムでなければならないと再確認した。歌のすばらしさもとても大きいものだと感じ、まだまだ取り入れていない歌がたくさんあるので、音読みしながら学んだり、聴いたりして自分のものにしていきたい。うたとあそびと生活がつながることも学べたので、「楽しい」「もっとやりたい!」という気持ちがわくように工夫された実践の中で体と脳を育てていきたい。

【福島年長交流保育】4回目 場所：いわき海浜自然の家 参加園5園(いわきさくらんぼ保育園・好間保育所・もとみや幼児の家保育園・さくらっこ保育園・西口保育園) 年長児62名、職員15名 計77名

2泊3日で行われた今年度最後の合宿でした。今年は1年を通して、なごみ保育園の遠藤和江さんに来ていただき、リズム遊びの構成、進行そして、子どもたちの年長期の育ちと一緒に支えていただきました。

福島の交流保育では毎年、秋の2回目の合宿から、5園の子どもたちが他園の子どもたちと混合の9グループに分かれて3日間生活をするという取り組みをしています。今回の合宿でも、各保育園の保育士(9名)が前に出て、子どもたちの名前が呼ばれてグループに合流していくのですが、その際の子どもたちの背中が凛として見えました。合宿には担任以外の補助で参加する保育士もいるので、その日初めて会う保育士のグループになる子もいます。それでも他園の子との再会を喜んだり、自信に満ち溢れる子どもたちの表情を見ながら感動を覚えました。

5園の年長児は、日々違う保育園で生活していますが、大事な生活や保育士たちの保育に対する思いは同じだから、自分の事は何でもできるし、困ったことは言葉で伝えられるし、仲間と協力しながら生活できる力も育っているので、子どもたち一人ひとりが自信を持って生活できるのだと感じました。

グループごとに部屋に入ると、すぐに自分たちのグループの名前や班長を話し合いで決めていく子どもたち。いつも自分の保育園では恥ずかしがり屋で積極的に手を挙げない子も自ら班長を名乗り出たりする姿。逆に、自分の保育園では元気でリーダー的な存在の子が、遠慮がちにしている姿。などいつもとは違う子どもたちの姿に担任たちも職員の反省会で聞いて驚くこともありました。

さくらっこ保育園の1年目の保育士が初めて合宿に参加し、子どもたちのグループを担当したのですが、私が「何か困ったことはなかった?」と尋ねると、「子どもたち、私が何も言わなくても次の活動の準備を自分たちで考えて自分たちで生活できて感動しました。3日間何も困りませんでした」と話してくれました。

3日目は公開保育で、約90名の保護者が(遠い保育園は千葉県から何時間もかけ)参加してくれました。年長後半の子どもたちの姿に成長と感動を感じた時間となりました。(文責 さくらっこ保育園 齋藤)



年長リズム 縄跳び



食事の様子



文化行事 ほうねん座の荒馬や太鼓の演奏